

村上市橋梁長寿命化修繕計画

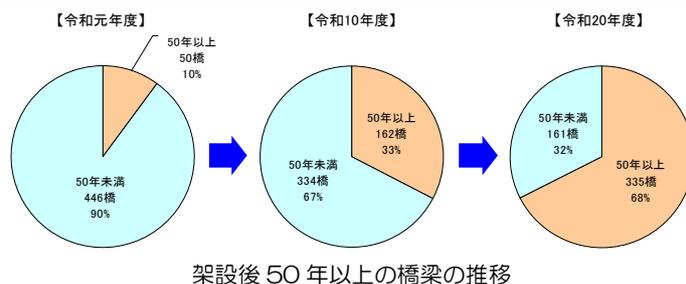
1. 背景・目的

村上市は県の北端に位置し荒川や三面川流域などに平地が広がり、周囲を山間に囲まれるとともに海岸線が約 50km に及ぶ地形にあります。

村上市は令和元年度現在で 825 橋の道路橋を管理しております。計画策定対象の 821 橋は 1960 年代頃から多く建設され始め、

現在 50 年以上経過した高齢化橋梁は 10% ですが、10 年後に 33%、20 年後には 68% となり橋梁の高齢化が急速に進行します（上図参照 建設年の分かる 496 橋が対象）。

このような背景から将来的な修繕・架け替え費用の増大が予想され、橋の適切な維持管理が必要となります。村上市の長寿命化修繕計画は、橋梁を長く大切に保全し、維持管理のコスト削減を図り道路利用のサービスを提供することを目的に策定します。



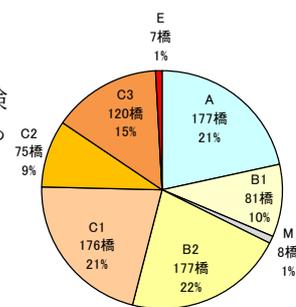
2. 計画期間

橋梁長寿命化修繕計画の計画期間は、5 年に 1 回の定期点検サイクルを踏まえ、令和 2 年度から令和 11 年度までの 10 年間とします。なお、点検結果等を踏まえ、適宜、計画を更新します。

3. 橋梁の状態把握

橋梁の維持管理の基本は橋梁の健康状態を把握することです。このための点検（状態把握）やパトロールを村上市の管理する全ての橋梁に対して定期的に行っていきます。

これまでに実施した定期点検の結果、何らかの対策を必要とする C1、C2、C3、E 判定となった橋梁は全体の 46%（378 橋）となっています。



4. 長寿命化修繕計画の概要と取組み

長寿命化修繕計画では、従来の橋梁が傷んでから修繕を行う「事後保全」から損傷が軽微なうちに修繕を行う「予防保全」へ転換することで、より少ない修繕の費用で橋梁の長寿命化を図り、道路ネットワークの安全性・信頼性の向上に取組みます。

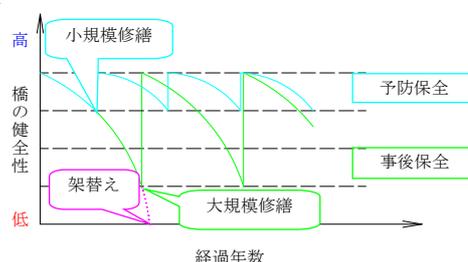
(1) 維持管理の方針

- ・定期点検、パトロールにより状態把握に努め、必要な修繕などを継続的に実施します。
- ・橋梁を良好な状態に保つため日常的な清掃などに取組みます。

(2) 修繕計画策定と実施の方針

- ・点検などにより橋梁の損傷を適切に把握し、損傷種類や程度、橋の特徴や路線の重要性などを総合的に考察した上で修繕の方法や時期を検討し、修繕計画を策定します。
- ・修繕計画に沿って、適切な修繕を行っていきます。

予防保全と事後保全の管理のイメージ



5. 長寿命化修繕計画による効果

(1) 安全性・信頼性の確保

橋の損傷状態を継続的に把握し、適切な対応をすることで道路ネットワークの安全性・信頼性を確実に確保できます。

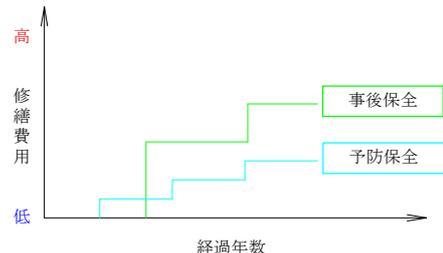
(2) コスト削減の実現

従来の「事後保全」の管理から「予防保全」での管理の導入によりコスト削減が期待できます。

(3) 平準化の効果

短期的な観点と中長期的な観点の双方を考慮して対策の優先性を判断することにより、限られた予算を有効活用できるとともに予算の平準化を図ります。

予防保全と事後保全のコスト比較イメージ



6. 今後の方針・取組み

令和元年度に策定した計画に基づき、適切に橋梁の状態把握と修繕を行うことにより道路ネットワークの安全性・信頼性を確保するとともに橋梁の長寿命化とコスト縮減に努めます。

7. 対策の優先順位の考え方

定期点検結果に基づき、効率的・効果的な長寿命化対策が図れるよう必要な措置を講じていきます。なお、対策の優先順位は、橋梁の健全度の他、県内市町村で統一した方針や考え方に基づき計画を策定しています。

8. 施設の状態・対策内容及び実施時期

対象橋梁の具体的な施設状態・対策内容及び実施時期について、橋梁の健全度を把握し、修繕の必要がある橋梁について優先順位を決定して、計画的に修繕を実施していきます。

9. 対策費用

本計画期間内に要する修繕費の概算費用は、約 32.4 億円です。

